

地道な活動 世界へ

高校生ら交流

室蘭ユネスコ協会フォーラム

室蘭ユネスコ協会(立野了子会長)主催のユネスコ・ユースフォーラム2017



7日、室蘭が12日、海岸町の旧室蘭駅舎で開かれ、高校生らが地道に積み重ねる活動の発表を通じて、日々の取り組みが世界に通じ、継続していくことの大切さを伝え合った。

今年で7回目。ユネスコスクールの認証を受けている海星学院高校と登別明日中等教育学校、清泉幼稚園と、ユネスコ協力校の北海道大谷室蘭高校の各代表が活動報告や発表を行った。

海星学院は、東日本大震災の被災地・岩手県釜石市で継続する傾聴ボランティア活動から防災意識を説いた。福永さやかさん(1年)と田中美季さん(2年)が発表。田中さんは予期せず多くの命が奪われた被災地では「当たり前」のことが当たり前ではない」と学び「後悔しないために素直な自分の気持ちを日ごろから伝えることが大事」と訴えた。

登別明日は、生徒会執行部と、今年発足したユネスコ有志実行委員会の活動や清泉幼稚園児と会場が一体となり、心を通わせたユネスコ・ユースフォーラム
国際交流事業を報告。生徒がデザインしたTシャツの益金を東日本大震災の子ども支援募金に贈っており、日本ユネスコ協会連盟会長名で感謝状が贈られた。
清泉幼稚園は園児が未来の地球の子どもたちに向けて歌を披露。「チキンダンス」では会場の参加を募り、輪を作って踊り交流を深めた。大谷室蘭は登別室蘭青年会議所と取り組んだ地元食材を使ったレシピづくりと実際に販売した活動などを報告。同校吹奏楽部によるプラスバンド演奏も繰り広げた。(栗島暁浩)